

体育祭リーダー選出

校 長 武井 正明

私は中学時代、体育祭というものがなかった。

「陸上記録会」というもので、バスで新潟市の陸上競技場まで行って、様々な種目の記録を取るもので、体育祭とは全く種類の異なるものであった。

当時、そういう学校行事に対してひじょうに後ろ向きだった私（運動は野球以外興味ないもんね）は、参加種目にやりたい種目はない。いつも皆が嫌がる長距離が余り、仕方ねえな、と毎回 1500mに出ていた。何の意欲もなく、機械的に走り、記録も記憶もない。

高校時代もそうだった。体育祭なるものは記憶になく、自前のグラウンドもなかったので、これもまた陸上競技場で、同じような競技会みたいなもので終わっていたように記憶している。時を同じくして、近隣校に行った中学時代の仲間が、体育祭について嬉々として話しているのを見ながら、そんなに体育祭って楽しいんか、って感じだった。

だから、体育祭の楽しさは教員になるまで、全く理解できなかった。

体育祭の面白さを知ったのは、教員になってから。特に今の、運動の得手不得手は全く関係なく、お祭りの一環、というような雰囲気、私は大賛成だ。せっかくやるのだから、運動の苦手な人も関係なく、楽しんじゃえばいい。楽しまなきゃソンだ。

軍団抽選会の後も「〇〇先輩と一緒にの軍になった」や「同じ赤軍だよ」などと頷きあう姿は、見ていて微笑ましく、羨ましくもある。青春だねえ…。

だから自分の娘には、脚光を浴びる「応援リーダー」に、是非なってほしかった。

本人はなりたい気持ちはあるが、迷っているようだった。私は「ダメでもいいから立候補してみれば？」と、相当背中を押したが、そこはやっぱりオレの娘、最後の最後で立候補を「やっぱりやめるわ」…になっていたら、きっと人気で大変だったと思う。

そして体育祭当日。

中三最後の体育祭、我が娘は応援リーダーではない「一般生徒」だけれど、どんな感じでやっているのかな、と気になって、妻と見附西中学校のグラウンドに行った。

そしたらいましたよ、キラッキラの我が娘が。

眩しい太陽の下、友達と弾ける笑顔で楽しむ、太陽よりも眩しい娘が。

これはどう見ても、オレの娘がこの中で一番カワイイわ。なんでリーダーに推されないのか不思議だ。みんな見る目がないなあ…。他の子は全く視界に入らなかった。私のイチ押しの大スターは、グラウンドで最も輝いていました。今も忘れぬ、懐かしい思い出です。

今日は吉中の体育祭リーダー選出の締め切り日。

なった人も、ならなかった人も、みんなが主役の体育祭です。楽しもうね！